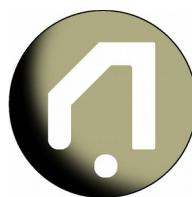


ꠘꠞꠟꠣ ꠟꠞꠟ ꠘꠞꠟꠣ ꠘꠟꠟ

リアニース・ミン 基礎文法

Version 1.2

ꠘꠞꠟꠣꠞꠟ ꠟꠞꠟ
Favanlaim Chezan



© 2018 kumita
<http://conlangs.webcrow.jp>

I. 名詞の格

語尾によって文中での名詞の役割が決まる。名詞の語末が長母音 (aa, ee など) か -n によって付加される語尾が変わるため*1、ここでは lemuu (狼) と chemin (物語) を例にする。

1. 主格「～が／～は」
lemuu「狼が」 *chemin*「物語が」
2. 属格「～の」
lemuum「狼の」 *cheminmi*「物語の」
3. 対格「～を／～へ」*2
lemuuin「狼を」 *cheminni*「物語を」
4. 奪格「～から」
lemuuma「狼から」 *cheminma*「物語から」
5. 処格「～のもとで／～において／～のところで」*3
lemuufam「狼のもとで」 *cheminfam*「物語で」
6. 様格「～として／～のように」
lemuunai「狼のように」 *cheminnai*「物語として」

人称代名詞には 4 種類あり、それぞれが名詞同様の格変化をする。主格形は存在しない。

「私」 *aimi, aini, aima*…
「あなた」 *eimi, eini, eima*…
「彼」 *uimi, uini, uima*…
「それ」 *oimi, oini, oima*…

※ 単数・複数は区別しない。

*1 *tide* (矢) や *cuni* (国) のように語末が短母音の場合、どちらの語尾を用いるかは話者による。

*2 -ii で終わる名詞の対格は -en となる。 *lianii*「月が」 > *lianien*「月を」

*3 -fan (-van) で終わる名詞の処格は n を m にする。 *lavan*「山が」 > *lavam*「山で」

II. 状態を表す文 (be 動詞文)

1. 「～だ」「～がいる」(単純 as 文)

(a) 眼前の光景や、自身の状態を表す。*「～」には名詞や形容詞が置かれる。

Sonis as.「寒い」 *Nedaa as.*「ネズミだ／ネズミがいる」

2. 「SはCだ」(SVC文)

(a) Cが名詞の場合、Cを様格 (-nai) で置く。

Siinai lemuu as.「狼は動物だ」 (=動物として狼がある)

(b) Cが形容詞の場合、Sを処格 (-fam) で置く。*形容詞は格変化できず様格になれないため。

Lemenfam leis as.「海は大きい」 (=海においては大きくある)

*ただし *Leis lemen as.*「大きい海がある」とするのが単純かつ一般的。

(c) Sが人称代名詞の場合は、Sを処格 (-fam) で置く。*人称代名詞には主格形が無いため。

Uifam lemuunai as.「彼は狼だ」 (=彼においては狼としてある)

*注意: *Uifam lemuu as.* は「彼のもとには狼がいる」の意。

Eifam nileeis as.「あなたは馬鹿だ」 (=あなたにおいては馬鹿である)

3. 疑問・否定・過去形 (一般動詞文でも同様)

(a) yes/no 疑問は文末に nai を置く。

Sonis as nai?「寒いのか」 *Simennai afin as nai?*「これは雪か」

(b) 否定は動詞 as の後に mia を置く。

Sonis as mia.「寒くない」 *Nezennai legnaa as mia nai?*「狐は猫ではないのか」

(c) 過去形は動詞 as の前に cam を置く。

Sonis cam as.「寒かった」

Ⅲ. 動作を表す文（一般動詞文）

1. 「SがVする」（SV文）

(a) Sが名詞の場合、動詞は原形 (-fi) になる。

Nezen saafi. 「猫が寝る」

Simen cam faveefi. 「雪が降った」

(b) Sが人称代名詞の場合、動詞の語尾として接続する。

Saafia mia. 「私は寝ない」 *Faveefiu.* 「彼は落ちる」

人称代名詞が動詞に接続される
場合の形は以下ようになる。

「見る」 naafi (原形)

「私は見る」 naafia

「あなたは見る」 naafie

「彼は見る」 naafiu

「それは見る」 naafio

2. 「SがOをVする」（SVO文）

(a) Oは対格 (-in / -ni) となり、文の前に置かれる。

Liafeein nezen naafi. 「猫が鳥を見る」

(b) Oを説明する語句以外は、OとSの間に置かれる。

Simenis liafeein chemenfam nezen cam naafi. 「猫が川で白い鳥を見た」

(c) 動詞をOにすることもできる。 (Ⅶ.1を参照)

Saafien chiifia. 「私は寝たい」 (=寝ることを望む)

3. 「SがO₁にO₂をVする」（SVO₁O₂文）

(a) 間接目的語 (~に) を表すときは「属格+ta」を用いる。

Minni lizenmi ta lienfia. 「私は人々に言葉を教える」

Ⅳ. 何かを尋ねる文（wh 疑問文）

1. 「何を」「どう」（接続疑問詞）

接頭辞 na-を動詞に付加することでシンプルな疑問詞文*¹を作る。

(a) 他動詞に na-を付けることで、動作の相手（何を）を尋ねられる。

Nanaafiu? 「彼は何を

(b) 自動詞に na-を付けることで、動作の状態（どう）を尋ねる。

Nasiifie? 「あなたは元気か」 (= どう

2. 「どこ」「いつ」「誰」「何」など（独立疑問詞）

様々な名詞に接頭辞 na-を付加することで、疑問詞*¹を作ることができる。その一例を示す。

(a) na + fan (土地) = nafan (どこ)

Nafanma nafanni tavaafie? 「あなたはどこからどこへ行くのか」

(b) na + sin (時間) = nasin (いつ)

Nasin^{*2} *laziunsen saafi?* 「人間はいつ寝るのか」

(c) na + sen (人) = nasen (誰)

Nasen *licheefie?* 「あなたは誰を愛しているか」

(d) na + fin (物) = nafin (何)

Nafin as? 「これは何か」 (= 何があるか)

*1 na を文中で用いる場合、文末の疑問助詞 nai (II.3.a) はつけない。

*2 処格語尾 (-fam) はしばしば省略される。

V. 命令と禁止 (命令文)

1. 命令や適当を表す raa (～すべきだ) *目的語の後 (ない場合は文頭) に置かれる

(a) 1人称の場合「～しよう」となる。

Raa saafia. 「寝よう」 *Mensiien raa maafia.* 「魚を食べよう」

(b) 2人称の場合「～しなさい」となる。

Raa saafie. 「寝なさい」 *Lemenni raa tavaafie.* 「海へ行けば良い」

(c) 3人称の場合「～させよう」となる。

Raa saafiu. 「彼を寝かせよう」 (= 彼が寝るようにさせる)

Raa famen faveefi. 「雨よ降れ」 (= 雨が降るようにさせる)

2. 禁止を表す chiuu (～すべきでない) *目的語の後 (ない場合は文頭) に置かれる

(a) 1人称の場合「～すまい」となる。

Chiuu saafia. 「寝るものか」 *Uini chiuu naafia.* 「彼を見ない方が良い」

(b) 2人称の場合「～するな」となる。

Chiuu saafie. 「寝るな」 *Aini chiuu fiivie!* 「私に触れるな」

(c) 3人称の場合「～させるな」となる。

Chuu savaafiu. 「彼らを入れるな」 (= 彼らが入るようにさせない)

Chiuu livien fevaafi. 「嵐よ来るな」 (= 嵐が来るようにさせない)

VI. 文や単語を繋ぐ (接続詞)

1. 単語と単語を繋ぐ (等位接続詞) *文と文を繋ぐこともできる。

(a) a (と/および/～して/～も) "and"

nonnaa a legnaa 「タヌキとキツネ」 *maafi a saafi* 「食べて寝る」

Aini liafen a fan a tacheefi! 「天も地も私たちを祝福している」

(b) ana (か/または) "or"

ufin ana afin 「あれかこれ」 *siifi ana sonfi* 「生きるか死ぬか」

2. 文と文を繋ぐ (従位接続詞)

(a) atai (～ので)

Cam nizonfia atai, savanni cam cavaafia. 「私は疲れたので家に帰った」

(b) amai (～が、しかし)

Uifam leis as amai, tius as. 「彼は大柄だが素早い」

(c) anai (～ということを/～ように)

Oini cam maafiu anai, neefia. 「彼がそれを食べたと私は思う」

Ninne liafeevi anai, seveefiu. 「蝶が飛ぶように彼は踊る」

(d) naina (～ならば)

Afinni chiifie naina, tienfia. 「あなたがこれを欲しいならば、あげる」

(e) sim (～とき)

Nignuufie sim, raa naamenfie. 「あなたが悲しいときは、泣きなさい」

Ⅶ. 動作に様々な意味を付け加える (助動詞的な用法)

1. 動詞を目的語にする動詞 *目的語になる動詞は対格 (-fien) の形をとる。

- (a) liifi (知る) を用いて「～できる」を表す。
Um liafeein naafien liifie nai? 「あなたはあの鳥を見ることができるか」
- (b) chiifi (望む) を用いて「～したい」を表す。
Fadenfien chiifia mia. 「私は支配されたくない」
- (c) tienfi (与える) を用いて「(自由に) ～させる」を表す。
Uimi tavaafien raa tienfie. 「彼を行かせてやれ」 (=彼の行くことを与えなさい)
- (d) fiunvi (させる) を用いて「(強制的に) ～させる」を表す。
Aimi namiifien fiunvie? 「あなたは私に何を言わせるのか」 (=私の何を言うことをさせるか)
- (e) chenfi (好まれる) を用いて「～してもよい」を表す。
Am ninmonni maafien chenfia nai? 「私はこの果実を食べてもよいか」

2. その他の助動詞的な語句

- (a) 否定の mia を動詞の前に置くと「～できない」の意味になる。
Maniis minni mia leefia. 「私は日本語を理解できない」
- (b) tau (あとで) を動詞の前に置くと未来形になる。*品詞は副詞
Oini tau fiivia. 「それは後でやる」 *Famen tau as.* 「雨だろう」
- (c) amca (これまで) や amta (これから) は継続的な意味を表す。*品詞は副詞
Am licamien amca chenaafia. 「私はこの本を読み続けてきた」

Ⅷ. 程度や時間・場所を表す語句 (副詞)

1. 動詞や形容詞を修飾する副詞

多くは形容詞 (-is) の語尾を (-u) に変えて作られ、修飾したい語の前に置く。下記に一例を示す。

- (a) liu (多く/とても) niu (少し/あまり)
Liu chen is as. 「とても良い」 *Niu faicaafie nai?* 「あなたは少し怖がっているのか」
- (b) tiu (素早く) faau (ゆっくりと)
Raa tiu fiivie! 「とつとつやれ」 *Neziien raa faau fevaafia.* 「虫にはゆっくりと近づこう」
- (c) tinu (本当に) siziiu (幸せに) sisanu (健康に)
Eimi siziiu a sisanu siifien chiifia. 「あなたが幸福かつ健康に暮らすことを望む」

2. 時間や場所を表す副詞

多くは名詞の処格形から語尾 (-fam) が落ちたものである。下記に一例を示す。

- (a) anii (今日) tainii (明日) cainii (昨日) anon (今夜)
Uini anii cam tainaafia. 「私は今日彼に会った」
- (b) asin (いま) esin (そのとき) usin (あのとき)
Sinnanni esin fanii cam faveefi. 「そのとき、時計に稲妻が落ちた」
- (c) afam (ここで) efam (そこで) ufam (あそこで)
Ufam nafin cam faavi anai, liifie nai? 「あそこで何があったのかあなたは知っているか」

IX. 位置などを詳しく述べる (助詞)

名詞の**属格形** (-m / -mi) の後に様々な助詞を付けることで、格変化よりも詳しい情報や役割を示すことができる。

1. 方向を示すもの (対格に準ずる)

- (a) la (上へ) fa (下へ)
mailaim la 「屋根の上へ」 *saatenmi fa* 「ベッドの下へ」
- (b) ta (前へ) ca (後ろへ)
uimi ta 「彼に向かって」 *lavanmi ca* 「山の向こうへ」
- (c) sa (中へ) ma (外へ)
favenmi sa 「穴の中へ」 *savanmi ma* 「家の外へ」

所有代名詞は名詞に接続され、その名詞が誰のものかを示す。格語尾はその後に付加される。

2. 位置を示すもの (処格に準ずる)

- (a) lai (上で) fai (下で)
lemenmi lai 「海の上で」 *levonmi fai* 「木の下で」
- (b) tai (前で) cai (後ろで)
eimi tai 「あなたの前で」 *fansanmi cai* 「草の陰で」
- (c) sai (中で) mai (外で)
nonfanmi sai 「森の中で」 *ledenmi mai* 「町の外で」
- (d) sama (間で) seve (周りで) teve (横で)
eimi a aimi sama 「あなたと私の間で」 *lu cunim sama* 「二国の境界で」
menfanmi seve 「池の周りで」 *liafenlelinmi seve* 「天文学に関して」
filiisavanmi teve 「学校の脇で」

chensen'ai 「私の友達は」
savan'aima 「私の家から」
len'ei 「あなたの名は」
sevaa'uifam 「彼の車で」
fien'oi 「その力は」

3. その他のもの

- (a) fiivam (～を使って)
Ledenni lisevaam fiivam cam tavaafia. 「私は列車で町へ行った」
- (b) cunai (～と一緒に)
Chensen'aimi cunai maafien chiifia. 「私は私の友人と食事がしたい」

X. 数の表現について (数詞)

ネコビトの数詞では、尻尾の数(1)、耳の数(2)、脚の数(4)を足した7進法を用いている。ただし100以上の位は日本語からの借用である。

1. 個数を表すとき (基数詞)

1 cu 2 lu 3 lignu (2+1) 4 fu 5 fignu (4+1) 6 filu (4+2) 7 su
8 signu 9 silu 10 silignu 11 sivu 12 sifignu 13 sivilu 14 lusu (2*7)
15 lusu a cu ... 21 lignusu (3*7) ... 28 fusu... 98 lusus 99 lusus a cu
100 cuo ... 700 suo ... 1000 cuti ... 700 suti ... 10000 curotu
0 mu 1/2 lumi cu 1/4 fumi cu 0.5 nene fignu 1.2 cu nene lu

2. 順番を表すとき (序数詞)

序数は基数詞に -as を付加することで作られ、形容詞と同じ扱いをする。

第1の **cuas** 第6の **filuas** ... *suas (第7の) には「全ての」という意味もある。